

ちゅうごく

# 中国DAY

かいさい  
開催しました

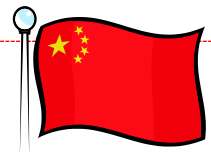
12月7日(土) 交流ひろばにて中国DAYが開催され、15名の方が参加しました。

山形県国際交流員の王雪妍さんより、中国の衣食住交について、春節の過ごし方、中国の教育制度などの話を聞きました。



講師の王雪妍さん。衣食住交の紹介の時には、中国の食文化について紹介。中国では「4」と偶数が縁起がいいと大事にされているため、用意する料理の品数は必ず偶数。来客時にはたくさんの料理でおもてなしをすることをとても大切にしているため、16皿もの料理を作ることもあるそうです。中国といえば水餃子。餃子作りは家族みんなで行うそうで、春節(旧暦の正月)の時期にも家族が集まって一緒に作るそうです。

王さんの出身地：黒龍江省のハルビンについても紹介されました。ハルビンはロシアと接しているためヨーロッパ風の建物や街並みも多く、「東方のモスクワ」と言われているそうです。これからの時期は「氷祭り」でとても賑わいます。



王さんにお勧めの飲み物を伺ったところ、「緑茶」とのこと。中国の緑茶は形が平らです。味は日本の緑茶よりもマイルドで優しい感じで、参加者からも大変好評でした。

2013年は、黒龍江省と山形県が友好県省を締結して20周年です



中国の「一人っ子政策」についての説明もありました。これにより子供は両親とそれぞれの祖父母、合計6人からの愛情、期待を一身に背負うことになったそうです。王さんが「運命の交差点」と表現していた大学受験の日もこの家族や親戚が心援のために同行するそうです。中国の高校には部活動はなく、この受験のために猛勉強の毎日。

参加者からの「音楽や美術などの情操教育の時間はないのか？」との質問に、「ないです。もしそういう時間を作ったら生徒の親たちから大変なクレームが来る」と王さん。日本の高校生も受験で大変ですが、それとは比べものにならない位のハードな時間を中国の高校生たちは過ごしているようです。王さんは「思い出したいくない」と笑顔で話していました。中国と日本、同じアジアの身近な国ですが、やはり大きな違いがあるようです。